昭和63年８月２日第３種郵便物認可　　平成24年９月１日発行（毎月１回１日発行）第341号

WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

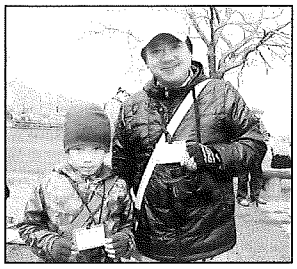
2012.9

No.341

日本野鳥の会　埼玉

SHIRAKOBATO

６月の総会の際、平成 24 年県内鳥見ランキング・観察鳥種数の部門で、石塚敬二郎氏、石塚　奏（小６）氏が同数１位（155 種）で表彰されました。会場からは「親子で鳥見とは素晴らしい」「お父さんは楽しいだろうなぁ」「息子さんは猛禽類を見つけるのが実に早いんだよ」などの声が次々と編集子に聞こえてきました。そこで今月号は、155 種を親子でどのように積み上げていったのか、そのあたりを話していただきます。



県内年間鳥見数 155 種　親子鳥の鳥見日記

石塚敬二郎・奏(みなと)（さいたま市）

●鳥見キャリア３年目の私たち、どのように「155 種」？

と皆さん、不思議がられているのではないでしょうか？　おそらく‥‥

①常に２人で鳥見をしているから‥‥

②子供の視力が恐ろしく良く（笑）、猛禽類の発見率が高いから‥‥

③単純に鳥見機会が多かったのでは‥‥

④結構、いい加減に集計・報告したのでは‥‥

といった推測をされているのでは？

①と②についてはほぼその通りですが、③については、子供は小学校、私は仕事ですので２人そろっての鳥見機会は、ほぼ週末のみ‥‥です。

④についても、ビミョーなところは一切数字にいれなかったくらい‥‥。むしろ、かなりシビアに集計したつもりです。

●では、どのようにして？‥‥

その年の子供との目標（約束）として「鳥見ランキング上位入賞！」を掲げ、前年より綿密に準備をしていました。ちなみに、さらに前年の目標・約束は「三室探鳥会の１年皆勤参加」→達成でした。

具体的にはまず、子供と一緒に過去の情報や記録の確認。自らの「フィールドノート」、さらに過去２年分の『しらこばと』の野鳥情報欄やネット上の情報などで、いつ、どこで、どんな鳥が？　を細かくチェック。

その上で鳥見の年間計画を立てました。

もちろん、もっとも効率的な方法が探鳥会への参加です。ただこれも、限られた日程のなかでより結果を残すために『しらこばと』から過去の探鳥会での確認鳥を調べ、どの時期にどこの探鳥会に参加するか、を年間で決めておきました。

これだけでも（探鳥会への参加のみで）「年間 110～120 種」はいきます！

●さらに数字を上乗せするために‥‥

皆さん同様、近場のメインとなるフィールドには時間の許す限り出向きました（私たちは「秋ケ瀬、大久保」がもっとも近場）。

つまるところ、やはりこれが一番重要‥‥近道なし(笑)。

ここで「子供連れ」で助かったこと‥‥

やはりフィールドスコープを担いでいる子供は珍しいのか、みなさん興味があるらしい。そのために、見知らぬ方からお声がけいただき「これは内緒なんだけど‥‥」と貴重な情報を頂戴したり、さらに顔見知りとなった地元ベテランバーダーの方々から近々の情報や過去のご経験を踏まえた豊富な知識等、たくさんのお話をお聞きしたりする機会に恵まれました。

逆に「子供連れ」のマイナス点‥‥（笑）

そこは子供、集中力が長続きせず「根気良く待とう‥‥」というような鳥見の仕方は無理（涙）。特に鳥の出が悪い日など、注意を払う対象が「子供」になってしまいます。

●キーポイントとなる鳥種として

①まずシギ・チドリ類‥‥

残念ながら探鳥会では、その数が稼げません。また見られる場所のほとんどが目標物のない広大な田園地域。種類も毎年バラつきがあり、まさに運まかせ。そのため、前述した情報等を頼りに現場へ足しげく通うしか道はありませんでした。

②つぎに、春から初夏にかけての渡り（移動）の鳥たち‥‥

シギ・チ類とは対照的に、ポイントや時期・種類に変化が少なく、確実に押さえておきたいところです。しかし、若葉が生い茂り始め、ただでさえ確認しにくい季節の上、ヒタキ類（♀）、ムシクイ系といったビギナーには判別困難な種が多く、さらにその滞在期間（見られる期間）も短い、といった私たち親子にとって不利な条件ばかり。

これは情けないですが、他の人に頼る･･･。現場でベテランバーダーさん達の後をひたすら付いて回る戦法（涙）で乗り切りました。

●その結果････

もちろんすべてが計画通り、とはいかなかったのですが、むしろ思いがけない鳥種との遭遇やプラスアルファ、終わってみれば私達も考えていなかった数字に（当初の計画では運が良くて130種）。

さらに「1位！」。目指してはいましたが正直、当人達が最も驚いている次第です。

●ただ少し反省したことも････

スケジュールに余裕が無かったので県外の鳥見ができなかったこと（笑）････。

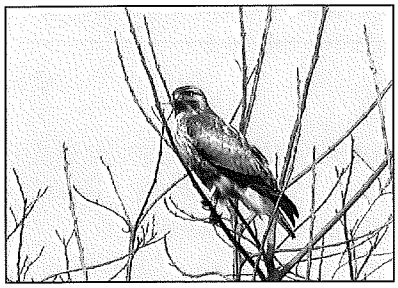
そして、「計画的に鳥見数を追う」というやり方のせいで、充実した鳥見ができた日でも、その数が増えていない事で帰り道、２人でため息をついていたりとか････。特に年の後半は素直に楽しめなくなってしまっていたこと。

やはり、偶然の日々の積み重ね、１年を振り返ったら、たまたまこんな数字だった･･･であるべきかな、と。

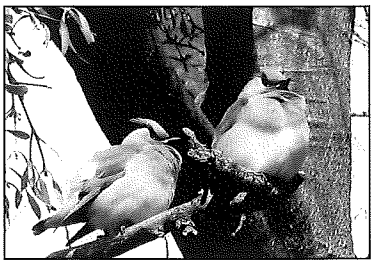
●僕（奏）の印象に残ったのは････

1/ 2　芝川第一調節池　チュウヒ他

今年の目標を胸に新年早々、いさんで現場へ。期待通りチュウヒ、ノスリ（写真）、チョウゲンボウ、ハヤブサ、オオタカと猛禽オンパレード！幸先よいスタート。



2/21　彩湖　ヒレンジャク



前日、彩湖自然学習センターの探鳥イベントに参加していた兄より「レンジャクらしい鳥が･･･」で行って見ると、３羽のヒレンジャク（写真）！　大勢のギャラリーがつきもののレンジャク、この日は僕たち親子だけ。

3/ 6　玉淀ダム湖　オシドリ

ここ数年、極端に確認数が減少していたようですが、そこには数十羽ものオシドリが！　あまりの数の多さに圧倒され、場所の雰囲気もあってちょっと不思議な光景でした。

8/23　川越市南古谷田園　オオジシギ

4/29「大久保 シギ・チドリ調査」でのチュウジシギの時もそうでしたが、共に現場に居合わせたＥさんのおかげでタシギにならずにすみました。

11/27 入間川探鳥会　イソヒヨドリ

内陸では滅多にお目にかかれないイソヒヨドリ！　興奮冷めやらぬ帰り道、偶然立ち寄った伊佐沼でさらにまさかのクロツラヘラサギ（飛来した当日でした）！！　こんな日もあるんだなあ････。

12/11　鴻巣市境　ニュウナイスズメ、ミヤマガラス

最後のチャンス、と先日Ｙさん達に教えて頂いていたポイントへ。見つけられるか少し不安でしたが、到着後すぐにニュウナイスズメ数十羽の群れ、200 羽を越すミヤマガラスを確認････。ホッとしました。

●父（敬二郎）のひとりごと････

そんな息子も来年は中学生。連れまわせるのも（付き合ってもらえるのも）今年が最後かな･･･と。彼が大人になって子供を持つ年頃に、ふと「そういえば親父とよく鳥見に行ってたなあ･･･」とその子供をつれて鳥見へ･･･などと今から想像をしております。

朝日新聞社などに抗議文を送りました

7月17日付け朝日新聞に、朝日新聞社・全日本写真連盟・森林文化協会主催第29回「日本の自然」写真コンテストの埼玉県賞受賞作品として、「子育て」と題する写真が掲載されました。

オオヨシキリの親が餌をくわえてとまり、巣の中のヒナたちが大きな口をあけている、ひと昔ふた昔前にありふれた構図の写真で、撮影しやすい様に、巣のまわりのアシを切り払ったのではないかと疑えるものです。

日本野鳥の会としては、写真撮影マナーの最重要項目のひとつとして、子育て中の巣の写真は撮影しないことを上げています。そのかいあって、最近はこのような問題写真は少なくなっていたのですが、今回新聞紙上に掲載されてしまいました。埼玉役員の中から朝日新聞社に抗議すべきとの意見が事務局に届き、藤掛埼玉代表、海老原副代表兼事務局長、公益財団本部の担当である普及室が相談し、7月26日付けで、主催3者に対し、次の抗議文を送りました。

２０１２年7月２５日

朝日新聞社　様
全日本写真連盟　様
森林文化協会　様

（公財）日本野鳥の会
理事長　佐藤仁志
日本野鳥の会埼玉
代表　藤掛保司

7月１７日朝日新聞に掲載された「日本の自然」写真コンテストの写真について

拝啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申しあげます。

さて、さる7月１７日の朝日新聞に「日本の自然」写真コンテストの受賞写真が掲載されましたが、当会としては社会的な影響の大きさを憂慮し、意見を申し述べさせていただくことにしました。

問題の写真は、第２９回「日本の自然」写真コンテスト　埼玉県賞受賞の「子育て」です。この写真は、営巣中のオオヨシキリを撮影したものですが、営巣中の野鳥を撮影することは野鳥の繁殖に多大な影響を与え、最悪の場合、繁殖を放棄させることもあります。

特に小鳥の仲間は、１年間で１０万匹以上の虫を食べるとの試算もありますが、一つがいの親鳥が繁殖を成功させるか、それとも失敗するかということは、自然界のバランスを保つ上で与える影響は決して小さくありません。このようなことから、当会ではこれまでも、繁殖中の巣の撮影は極力控えるように、事あるごとに会内外に訴えてまいりました。

しかしながら、今回のように、明らかに育雛中の巣を撮影した写真がこうして賞を受賞し、メディアに掲載さることは「こういう写真が受賞しやすい写真だ。」ととられ、全国のアマチュアカメラマンに、営巣中の巣の撮影を推奨することになるのではないかと危惧します。

写真を通して野鳥と親しむはずが逆に野鳥に悪影響を及ぼすといった事例は各地で発生していますが、このような事態が続くことになれば、いずれそのしわ寄せは写真業界にも跳ね返ってくるのではないでしょうか。

どうか、今後は同様のコンテスト等で、野鳥の巣を撮影した写真を取り上げないようご配慮を強くお願い申しあげますとともに、ご見解お待ち申しあげます。

敬具

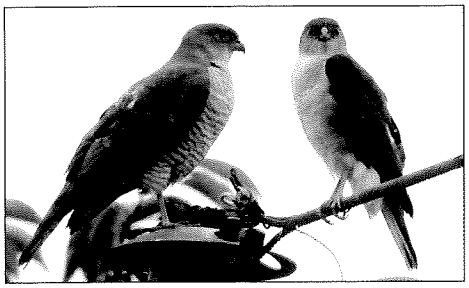
公益財団法人　日本野鳥の会普及室
富岡辰先、箱田敦只
〒141-0031 東京都品川区
西五反田 3-9-23　丸和ビル
TEL：03-5436-2622

野鳥情報

さいたま市見沼区染谷　◇５月24日、メジロ１羽、生垣にとまり、細い草の茎を何度もくわえなおす。巣材用に加工中？　６月７日、ホオジロ♀１羽、幼鳥３羽とともに草地を歩きまわる。近くの電線でホオジロ♂１羽がさえずる（小林みどり）。

さいたま市緑区見沼自然公園　◇５月24日～６月15日、カイツブリ１～２羽。５月24日、エナガ幼鳥を含む５羽＋の群れ。６月１日、バン成鳥１羽。オオバン１羽、滞在中（６月末の時点で）。今年も越夏？（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（石橋～鷲山橋）◇５月25日、コアジサシ１羽、魚をくわえて上空を東の方へ。オオヨシキリ、３カ所でさえずる。５月29日～６月８日、オオヨシキリ２羽。１羽は鷲山橋上流側の中州で、もう１羽はさらに30mほど上流で、たがいに張り合うようにさえずり続ける。６月12日、オオヨシキリ１羽、鷲山橋上流側。これまで２羽で張り合っていたが、決着がついたのかな？　６月４日、カルガモ２羽、縦に並んで泳ぐ。後方の１羽は盛んに首を上下させるが、前方の１羽は何の反応もしない。ホオジロ幼鳥１羽、木の枝にじっと止まっていて、時々「チュッ」と鳴く。この声は成鳥の地鳴きよりも柔らかく細い。６月８日、モズ幼鳥２羽、「キチキチキチ…」と成鳥と同じように鳴きながら、畑の低木の間を移動してゆく。６月12日、カイツブリ２羽、草の塊やゴミをくわえて来て、岸辺に浮かぶアシの茎などの塊に乗せる。巣造りと思われたが、その後の営巣行動は観察されていない。６月29日、バン成鳥１羽、倒れたアシの茎に乗ったものの、バランスを崩し、あわててはばたく（小林みどり）。



ツミの♂（右）♀（左）の形態の違いがわかる写真が撮れました。（田中幸男）

さいたま市北区大宮第二公園　◇５月29日、カワセミ１羽、池の中の杭にとまり、くちばしと同じぐらいの長さの魚をくわえ、ひとたたきして一気に飲み込む。６月12日、メジロ２～３羽、家族と思われるシジュウカラ４～５羽と共に、ネズミモチの葉にできた虫こぶをつつく（小林みどり）。

さいたま市見沼区天神山公園　◇５月29日、ツミ♀１羽、木の枝にじっととまっている（小林みどり）。

さいたま市見沼区大和田緑地周辺　◇５月29日、路上にムクドリ成鳥２羽、幼鳥１羽。成鳥たちは盛んに採食するが、幼鳥はその周りをウロウロするだけ（小林みどり）。

さいたま市見沼区猿花キャンプ場周辺　◇６月５日、コゲラ１羽、ミズキの枯れた幹に穴を開けている。２～３回つついては左右を見回し、また、つつく。ハシブトガラス１羽が近くを通過したら、穴あけ作業を一時中断して他の木へ移動。しばらくしたら戻ってきて作業再開。６月11日、ハシボソガラス、ハシブトガラスとも尾や翼の一部が抜けている個体が目立つ。カラス類の換羽が始まったようだ。６月28日、ツミの声を４～５回聞くが姿は見つからない（小林みどり）。

さいたま市見沼区七里総合公園　◇６月11日、ハクセキレイ幼鳥１羽、口角にまだ黄色い部分が残っているが、成鳥と同じ声で「チチッ」と鳴く（小林みどり）。

蓮田市黒浜　◇６月14日午前９時30分頃、アジサシ、コアジサシ２羽ずつ。いつものコアジサシだと思っていたら、直ぐ近くを２羽で飛んでいるときに大きさの違いに気づく。良く見るとくちばしと頭部の黒色で１羽はアジサシだと分かった。アジサシがコ

アジサシを追い払う場面が時々あった（菊川和男）。

羽生市羽生水郷公園　◇6月14日、ヒバリ10羽＋が芝生で採餌。ここの芝生はヒバリ広場だ。コアジサシのヒナ2羽が親の足元でちょこちょこ。他の親は餌運びに忙しく、時々上空高く飛ぶトビに急発進。その後、執拗にモビング。コチドリ1羽が抱卵中。目だけぱちくりしていた。ムクドリ32羽が電線に整列。ムクドリの学校の様だ。その他、ゴイサギ、ダイサギ、アオサギ、キジ、オオヨシキリなど。7月30日、ホオジロが梢で囀り、モズの幼鳥が電線にとまっていた。黄色い羽が目立つ黒いカワラヒワが枝先で囀っていた。ムクドリ80羽±と一緒に色の濃いヒバリが草原で採餌。屋敷林の方からキジの声が響いた。その他、ダイサギ、アオサギ、カワウ、カルガモ、シジュウカラなど（長嶋宏之）。

坂戸市西坂戸調整池　◇6月20日午後6時50分～7時20分、「ツバメのねぐら入り」を観察、500羽＋。夕日に紅く染まった空をバックに、壮観でした。6月26日と7月4日も見に行く。まだ明るい午後6時45分頃から調整池上空に少数飛来。旋回しながら高度を下げてはまた上昇、それを繰り返しながら数が増え、午後7時10分頃最多の数になり、7時15分頃から一斉にヨシ原に降りてゆく。7時20分、全部降りて「ねぐら入り」が終る。6月28日午前5時「朝のツバメの飛び立ち」を観に行くも、もう飛び立っていて、いなかった（増尾隆）。

蓮田市西城沼公園周辺　◇6月21日、ホオジロが屋敷林のてっぺんでさえずっていた。ここでホオジロは珍しい。どこかで巣立ったハシボソガラスの幼鳥2羽が親鳥2羽の後を追いかけて、キュウリ畑を行ったり来たり。7月10日、沼にコアジサシが飛び込む傍らで、ツバメが水切りをしていた。コアジサシは魚をくわえて東方に飛んで行った。休耕畑でハシボソガラスとハシブトガラスの幼鳥がそれぞれ2羽と3羽、一緒に歩いて採餌していた。7月20日、ハシブトガラスが飛びながら何かを吐き出した（長嶋宏之）。

戸田市美女木　◇6月23日、外環道と埼京線が交差する付近を中心にヒメアマツバメ30羽＋が飛び回っていた（内田克二）。

さいたま市見沼区加田屋　◇6月26日、バン成鳥1羽、カルガモ3羽とともに、あぜ道で立ったまま休息（小林みどり）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園　◇6月27日、元荒川でカイツブリ1羽と帰りそびれたヒドリガモ1羽。池ではカルガモ2羽が水浴び。林では、コジュケイの声、シジュウカラ、ホオジロ♂、カワラヒワ、ムクドリ、ハシボソガラスの親子。上空では、コアジサシが2羽、ツバメが7羽飛んでいた（内田克二）。

さいたま市岩槻区長宮　◇6月28日、コアジサシ30羽＋が営巣中。コチドリのヒナが親鳥の後を追いかけていた（内田克二）。

鴻巣市大間1丁目　◇7月10日午後6時頃、電線にムクドリが7～8羽とまっていた。そのなかに一回り小さなシルエットが2羽。よくよく見たら、1羽はコムクドリ♂だった。もう1羽は♀かなぁ。それにしてもこの季節、こんな場所でコムクドリを見るなんて…（榎本秀和）。

さいたま市大宮区大宮公園　◇7月18日午前6時30分頃、アオバズクの様子を見に大宮公園にワンコと散歩に行ったら、猛禽の羽根が落ちていました。汚れが付着していなくて、最近抜け落ちたものと思われます。家に帰り、「実物大識別図鑑 野鳥の羽根」（笹川昭雄，1996）で調べると、オオタカ若鳥の次列風切のようでした（浅見徹）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園付近　◇7月22日、休耕田でクサシギ3羽（海老原美夫）。

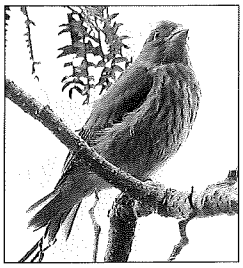
表紙の写真
スズメ目カラス科オナガ属オナガ（幼鳥）

ゴマ塩頭。背と腹に褐色味が強い。長さが不ぞろいで短めの尾羽。小さい白斑が全部の尾羽の先にある。オナガ幼鳥の特徴。

2010年9月、蓮田市内で撮影。

海老原美夫（さいたま市）

行事案内



カワラヒワ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会（要予約）

期日：**9月2日（日）**

詳細は8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：**9月9日（日）**

集合：**午前8時20分**、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:40発に乗車。

担当：森本、新井(巌)、鵜飼、倉﨑、栗原、千島、飛田

見どころ：暑さの中に秋を見つけましょう。**集合時刻を早く設定しました**。酷暑を少しでも避けるため、解散も早めにしますが、飲み物の準備や服装の工夫など、熱中症の対策をしっかりとお願いします。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：**9月16日（日）**

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、新部、渡辺、小菅、若林、赤堀、増田、須崎、船木、畠山、柴野、倉林、宇野澤

見どころ：暑い日差しは残っていますが、見沼たんぼには秋の気配。代用水の斜面林や屋敷林で南へ戻る渡り鳥が一時逗留。土手に咲く彼岸花も見ながらどうぞ。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：**9月16日（日）**

集合：**午前8時**、東武越生線川角駅前。

今年から集合時間が1時間早くなっています。ご注意ください。

交通：東武東上線川越7:23(急行)→坂戸で越生線乗り換え7:40発。または寄居6:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮6:56→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、杉原、高草木、高橋(優)、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：留鳥、残っている夏鳥、渡り途中の鳥、秋の草花や昆虫などを楽しみます。**開始が1時間早くなりました**が、鳥合わせ場所から駅までは遠いので、昼食持参、食べながらの交流も楽しみましょう。

4月22日秋ヶ瀬公園探鳥会

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：**9月17日（月・祝）**
集合：午前9時30分、記念公園北口駐車場。
交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1番バス乗り場から、8:57発、茨城急行バス「エローラ行き」乗車。松伏高校前で下車すれば前が駐車場です。
担当：田邉、橋口、植平、佐野、吉岡、榎本(建)、野村(修)、野村(弘)、森下、佐藤、進士、
見どころ：別名サギの探鳥会。6種のサギの揃い踏みとなりますか？　誰でも気楽に参加できる初心者向けコースですが、猛禽だってちゃんと出てくれています。

シギ・チドリ類県内調査

期日：**9月17日（月・祝）**
春と秋の2回、当会独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆ 大久保農耕地（さいたま市）
集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入口。
担当：石井　智
解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。また、秋はシギ・チドリが大変少ないこともあります。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：**9月23日（日）**
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口
交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:38発に乗車。
担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、石光、山口、山本(真)、久保田、星、水谷、間正
見どころ：夏鳥が去り、冬鳥が来るにはちょっと早い。その分身近な鳥をよく見たり、草花を楽しんだりします。

タカの渡り調査

半日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。タカ類についての知識も増えます。初めての方もお気軽にどうぞ。**雨天（小雨でも）中止。**調査のため参加費は不要です。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、調査地点にお出かけ下さい。

◆ 中間平展望台（寄居町秋山）
日時：**9月30日（日）**　午前8時から正午まで。
交通：車で寄居方面から県道294号線を東秩父方面に向かい、途中で右に入り、山道(町道)を登ります。中間平緑地公園の中です。（駐車場、トイレあり）。
担当：千島

◆ 天覧山展望台（飯能市）
日時：**9月30日（日）**　午前8時から正午まで。近くに水洗トイレがあります。
交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。
担当：佐久間

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：**10月27日（土）～28日（日）**
集合：27日午前9時、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。
交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→長野8:44着）、または「あさま505号」（東京7:24→大宮7:48→長野8:49着）。
費用：10,500円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。
定員：30名（先着順、埼玉会員優先）。
申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、菱沼一充（〒　　）まで。9月1日消印から有効受付とします。
担当：菱沼(一)、藤掛、中里、菱沼（洋）
見どころ：昨年は数羽のムギマキに出会うことが出来ました。今年も期待しましょう。もちろん紅葉真っ盛り、新そばや秋の味覚も楽しみです。
ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。

３月24日（土）　栃木県　日光東照宮裏山
参加：17名　　天気：曇後晴

カワアイサ　トビ　ハイタカ　ノスリ　キジバト　アオゲラ　アカゲラ　コゲラ　キセキレイ　ヒヨドリ　カワガラス　ミソサザイ　ジョウビタキ　キクイタダキ　エナガ　コガラ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　ゴジュウカラ　キバシリ　ホオジロ　アオジ　カワラヒワ　スズメ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス（28種）霧雨の中出発したが、直ぐに雨も止み、大谷川でカワガラスを見た。往路を久しぶりに稲荷沢沿いの道にとると、ジョウビタキ、アオジに加えて久しぶりのアカゲラが現れた。次いでキバシリが皆の前で木の幹を上り、さらに進むとエナガ、カラ類、キクイタダキの混群が枝を飛び交って目が離せない状態になり、その間にミソサザイもしっかりと現れた。帰路もカラの混群やキバシリが楽しませてくれて、決行が危ぶまれた探鳥会を幸せな思いで終了できた。　**（玉井正晴）**

３月25日（日）　行田市　さきたま古墳公園
参加：42名　　天気：晴

カワウ　アオサギ　マガモ　カルガモ　コガモ　オオタカ　チョウゲンボウ　キジバト　カワセミ　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　キセキレイ　ハクセキレイ　ビンズイ　ヒヨドリ　モズ　ジョウビタキ　シロハラ　ツグミ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　カワラヒワ　シメ　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（29種）（番外：ドバト）例年ならば桜の蕾も膨らんで、日当たりの良い所では、咲いているのに、今年は硬い蕾のままで、「寒いねー」が合言葉のようだった。曇ると急に寒くなるが、晴れた日差しは春のもので良い気分。トップに出てくれたのは、シロハラ。そのあとは、賑やかに囀るカワラヒワやカラ類混群で楽しんだ。古墳の発掘調査でコースを一部変更して進むと、何時もなら通らない所で、ラッキーにビンズイが出てくれ全員が確認。古墳の池でカモを見てから稲荷山古墳に登り、関口リーダーからの行田の地形などの話や、遠くのスカイツリーを楽しんだ。今シーズンは、鳥影が全般的に少ない感じだった。　**（内藤義雄）**

３月25日（日）　狭山市　入間川
参加：24名　　天気：晴後曇時々雨

カイツブリ　カワウ　ダイサギ　コサギ　アオサギ　マガモ　カルガモ　コガモ　オナガガモ　オオタカ　ノスリ　チョウゲンボウ　バン　コチドリ　イカルチドリ　イソシギ　キジバト　カワセミ　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　イワツバメ　キセキレイ　セグロセキレイ　ハクセキレイ　ビンズイ　ヒヨドリ　モズ　ジョウビタキ　シロハラ　ツグミ　セッカ　エナガ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　スズメ　ムクドリ　オナガ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（44種）（番外：ドバト）寒い日が続いているせいかツバメの姿が少ない。カタクリの花も開花まであと数日かかりそう。３月の見どころの２つがだめだとちょっとさびしいと思ったが、タカの仲間３種、シロハラ、ビンズイ、オオジュリンなど久しぶりに40種を超え、楽しい探鳥会となった。冬鳥が少ない年だと思っていたが、春先になってやっと出てきてくれた。いままでどこにいたのだろう。　**（長谷部謙二）**

３月31日（土）　加須市　渡良瀬遊水地

強風のため中止。　**（内田孝男）**

４月１日（日）　北本市　石戸宿
参加：64名　　天気：晴

カイツブリ　カワウ　ダイサギ　アオサギ　マガモ　カルガモ　コガモ　トビ　オオタカ　ノスリ　コジュケイ　キジ　クイナ　バン　キジバト　カワセミ　アリスイ　アオゲラ　コゲラ　ツバメ　セグロセキレイ　ヒヨドリ　モズ　ジョウビタキ　シロハラ　ツグミ　ウグイス　エナガ　ヤマガラ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　スズメ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（39種）４月の石戸宿は例年お花見の人出で落ち着いて鳥見が出来る状態ではない。ところが今年は、エドヒガンザクラは２日前に開花したばかり。出店は出ていても堤の桜はつぼみ。蒲桜もつぼみ。この日は、３月中旬並みの冷え込み。お蔭で人出も少なめ。しかし、風

も無く良く晴れて絶好の鳥見日和。嘴が銀色になったシメ、赤みの増したベニマシコ、シロハラなど多くの人が観察できた。　（吉原俊雄）

４月１日（日）　さいたま市　民家園周辺
参加：52名　天気：晴

カイツブリ　カワウ　ダイサギ　コサギ　アオサギ　マガモ　カルガモ　コガモ　オカヨシガモ　ハシビロガモ　ホシハジロ　キンクロハジロ　オオタカ　ノスリ　サシバ　キジ　バン　オオバン　タシギ　キジバト　カワセミ　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　モズ　ジョウビタキ　ツグミ　ウグイス　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　カシラダカ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　ベニマシコ　シメ　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（43種）（番外：ドバト）いつものヘルシーロードコースは、時期的に早かったためか、花がほとんど咲いておらず、鳥も少なめで断念。でも、第一調整池の周りは、カモたちやツグミ、オオジュリンの「冬」、ツバメ、ヒバリやサシバたちの「春」、カワセミの「青」、ベニマシコの「赤」、などなど、いろいろたくさん咲いていた。前日の春の嵐の影響もなく、穏やかな春の日だった。　（伊藤芳晴）

４月８日（日）　熊谷市　大麻生
参加：87名　天気：快晴

ダイサギ　トビ　オオタカ　ツミ　ハイタカ　キジ　キジバト　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　ビンズイ　ヒヨドリ　モズ　ジョウビタキ　シロハラ　ツグミ　ウグイス　エナガ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　オオジュリン　カワラヒワ　スズメ　ムクドリ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス（30種）（番外：ドバト、ガビチョウ）桜咲く春の佳き日、大麻生の300回記念探鳥会。それを祝して大勢の人たちが集まってくださった。記念ワッペンの販売あり、ちょっとしたセレモニーありで、集合場所の大麻生駅前は華やかな気分に包まれた。野鳥の森を目指して歩き出すと、熊谷大橋の橋脚をくぐるあたりで、枝先に止まるツミ♂若鳥に出くわし、参加者全員でじっくり楽しむ。その後もハイタカやオオタカが何度か飛び、識別談義に花が咲く。日射しは暖かく、雲ひとつない快晴。300回を祝福するかのようなタカ日和となった。　（榎本秀和）

４月８日（日）　所沢市　狭山湖
参加：21名　天気：快晴

カイツブリ　ハジロカイツブリ　カンムリカイツブリ　カワウ　ダイサギ　アオサギ　マガモ　コガモ　トビ　ノスリ　コチドリ　タシギ　キジバト　コゲラ　ツバメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　ヒヨドリ　ルリビタキ　アカハラ　シロハラ　ツグミ　ウグイス　エナガ　ヤマガラ　シジュウカラ　メジロ　アオジ　カワラヒワ　スズメ　ハシブトガラス（32種）（番外：ドバト）湖上の水鳥に多くを期待出来ない時期なので、林間を長く歩くコースを設定。お陰で菩提樹池周辺でタシギをしっかり観察出来た。カンムリカイツブリは隣接の多摩湖で、かろうじて１羽（夏羽）を観察。狭山湖では、ほとんどの水鳥が渡り去ったなか、ハジロカイツブリが律儀にも居残っていてくれて、鮮やかな夏羽で有終の美を飾ってくれた。「鴨達の 渡り去りにし湖の 面さみしや波変わらねど」　（石光　章）

４月14日（土）　さいたま市　秋ヶ瀬自然観察会

雨のため中止。

４月15日（日）　さいたま市　三室地区
参加：91名　天気：曇

カワウ　アオサギ　カルガモ　コガモ　ヒドリガモ　ハシビロガモ　オオタカ　ハイタカ　チョウゲンボウ　キジバト　バン　オオバン　コチドリ　イソシギ　キジバト　カワセミ　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　ヒヨドリ　モズ　シロハラ　ツグミ　ウグイス　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　ホオアカ（初出現）　アオジ　カワラヒワ　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（35種）（番外：ドバト）第３日曜日が定例の探鳥会で最も早い15日。ピンクの桜と、芝川土手のカラシナの黄色の花畑が広がる。新学期のためか初参加が多くて91名の参加者。やっぱり見沼たんぼの探鳥会は人も、鳥も、自然も良いなと実感する。　（楠見邦博）

４月21日（土）　東松山市　物見山
参加：50名　天気：曇

カイツブリ　カワウ　カルガモ　ハシビロガモ　オオタカ　ノスリ　コジュケイ　キジバト　コゲラ　ツバメ　セグロセキレイ　サンショウクイ

ヒヨドリ　モズ　ツグミ　ウグイス　エナガ　ヤマガラ　シジュウカラ　メジロ　アオジ　カワラヒワ　シメ　スズメ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（27種）（番外：ガビチョウ）いつもの市民の森を離れ、探鳥会では初めてとなる石坂の森を歩いた。雑木山の所々にヤマザクラが咲き、クヌギやコナラなどの新芽の萌え出た梢にはヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、コゲラが次々と姿を現した。下見時に見られたキビタキやセンダイムシクイには会えなかったが、途中立ち寄った地球観測センターの庭で、この冬本当に見る機会の少なかったシメがいるのを見つけた。谷津田に出たところで、上空をサンショウクイが鳴きながら飛び過ぎて行った。終日どんよりした天気で、輝くような新緑は望めなかったが、静かな里山風景を楽しむことができた。　**（中村豊己）**

４月21日（土）　『しらこばと』袋づめの会
ボランティア：11名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、倉林宗太郎、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫

４月22日（日）　春日部市　内牧公園
参加：30名　　天気：曇

カワウ　ダイサギ　コサギ　アオサギ　カルガモ　オオタカ　コジュケイ　キジ　バン　コチドリ　キジバト　コゲラ　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　タヒバリ　ヒヨドリ　モズ　アカハラ　ツグミ　ウグイス　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　ホオアカ　アオジ　カワラヒワ　スズメ　コムクドリ　ムクドリ　オナガ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（34種）（番外：ドバト）開始間もなくオオタカ１羽が飛過。蓮池では夏羽のダイサギ、コサギを観察。近くの桜の木にはコムクドリが見え隠れ。田んぼにはまだタヒバリが多く残留し、4/10下見時に１羽いたホオアカも飛び出てくれた。林ではアカハラも。曇天ながら新緑のなか多くの人の目で見た結果、34種(当地最多記録)も確認できた。　**（石川敏男）**

４月22日（日）　さいたま市　秋ヶ瀬公園
参加：39名　　天気：曇

カワウ　マガモ　カルガモ　コガモ　チョウゲンボウ　コジュケイ　キジ　バン　コチドリ　キジバト　ヒバリ　ツバメ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　ヒヨドリ　モズ　アカハラ　ツグミ　ウグイス　セッカ　キビタキ　オオルリ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　カワラヒワ　スズメ　コムクドリ　ムクドリ　ハシボソガラス　ハシブトガラス（32種）まず鴨川の機場へ。コガモ、コチドリ。サギたちは１羽も見えない。中土手橋を渡り、土手上に。水田には何もいない。チョウゲンボウがお出まし。後ろ側でコムクドリの声。８羽確認。水田の中の水路の縁を通るが、キジの声とモズだけだ。子供の森に入る手前でアカハラ。トイレ休憩の後、森に入る。フクロウの広場に40～50人の人々。オオルリを写す人たちの列。30分位待ったころオオルリが来た。３年ぶりの対面だ。しっかり楽しんで解散地へ。終わってみれば、すばらしい32種だった。　**（倉林宗太郎）**

４月29日（日）　栃木県　小倉山森林公園
参加：22名　　天気：晴

アオサギ　トビ　キジ　キジバト　アマツバメ　コゲラ　ツバメ　イワツバメ　キセキレイ　ハクセキレイ　セグロセキレイ　サンショウクイ　ヒヨドリ　モズ　カワガラス　ウグイス　エゾムシクイ　センダイムシクイ　キビタキ　オオルリ　コサメビタキ　エナガ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　メジロ　ホオジロ　アオジ　スズメ　オナガ　ハシブトガラス（31種）晴天の下、日光駅より出発。イワツバメ、ツバメの飛びまわる中をいざ森林公園へ。入るなりカワガラスのお出迎え。斜面ではオオルリ、キビタキのお出迎えで参加者全員が青色黄色の鳥を堪能。中盤は可愛い目のコサメビタキ。巣材をくわえ巣作り真っ最中！いたるところにコサメビタキがいる。ラストはサンショウクイの出現で大盛り上がり。出現数は30種そこそこだが、お目当てのオオルリ、キビタキを全員見ることが出来、満足。　**（青木正俊）**

４月29日（日）　シギ・チドリ類県内調査
ボランティア：19名　　天気：晴

相原修一、石井智、海老原教子、海老原美夫、小貫正徳、佐久間博文、柴野耕一郎、鈴木敬、鈴木秀治、陶山和良、時吉由子、中川敏子、新部泰治、船木数樹、持丸順彰、安岡健一、安岡光江、山口芳邦、米岡茂代 ◇ さいたま市大久保農耕地で行われた。

連絡帳

●鳥獣保護員活動の一例

当会推薦の埼玉県鳥獣保護員は様々な活動をしています。7月15日(日)の役員会でその一例が報告されました。

橋口長和鳥獣保護員は、野鳥を飼育している家があるが、不法飼育ではないのかとの連絡を会員から受けて、地域の環境管理事務所担当者と立ち入り検査を実施。キジバト、カルガモなどが飼育されていることを現認したが、近所の人からヒナを保護したので面倒見てほしいと持ち込まれたなどとの弁明を聞き、不法飼育されることが多い小鳥類などは見当たらないことから悪質性は少ないと判断。傷病野鳥の飼育やリハビリにあたるボランティア組織、里親制度を、環境管理事務所担当者から指導することになった、とのこと。

過去、他の鳥獣保護員の取り扱った事例では、警察官とともに取り締まりに当ったこともあります。

●柳生会長テレビで解説

7月23日(月)NHK総合04:20-04:30、Eテレ13:50-14:00(再放送)の「NHK視点・論点、ラムサール条約登録湿地を支えた地域のちから」に柳生博会長が出演するとのメールを本部から受け、メールアドレスのある会役員に転送しました。

柳生会長は、各地の登録化に向けて続けられた野鳥の会会員たちの活動、ラムサール条約登録の意義などについて語りました。

●次の関東ブロック協議会は茨城で

8月1日付け日本野鳥の会茨城県から届いたメールによれば、次の第36回関東ブロック協議会は、10月27日(土)～28日(日)の2日間、茨城県久慈郡大子町で開催されます。

●会員数は

8月1日現在1,931人。

活動と予定

●7月の活動

7月14日(土) 8月号校正(海老原美夫、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、山田義郎)。

7月15日(日) 役員会(司会:青木正俊、各部の報告・見沼田んぼ写真コンクール副賞提供の件・その他)。

7月23日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け8月号を発送(倉林宗太郎)。

●9月の予定

9月 1日(土) 編集部・普及部・研究部会。
9月 8日(土) 10月号校正(午後4時から)。
9月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
9月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

4ページ問題写真の撮影者は埼玉県在住だが、埼玉の会員名簿にはない。だから、この4ページを読むことはないだろう。マナーにうるさいから野鳥の会には入らないという人もいる。いろいろ難しい。(海)

「ツミが繁殖しているよ」との電話。巣はカラスの古巣を利用していた。昨年9月号の特集『ツミの観察日記』と同じだ。枝づたいに歩いているヒナも確認して、早々とその場を離れた。(山)

しらこばと 2012年9月号(第341号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。
印刷 関東図書株式会社